

昭和30年度統計主事資格認定講習会開かる

県では行政管理庁および県統計協会との共同主催で、去る3月5日から8日まで水戸市南三の丸の茨城教育会館において、昭和30年度統計主事資格認定講習会を開催した。この講習会は県および支庁、市町村における統計事務に従事している職員の中で、まだ統計法施行令に規定する統計主事となる資格をもたない者に対して講習を実施して、その資格を付与し調査統計事業の円滑な運営に寄与しようとするものであります。講習に出席した者は県および市町村統計関係者48名にのぼり、中でも機構改革や人事異動による新任の職員が多く、終始熱心に聴講されたことが非常に目立っていた。このたびの講習は4日間のみであつたが、次の機会は統計各論の講習を3日間実施して、行政管理庁長官からの正規の修業証書を授与されることになっている。しかし講習の内容はあくまでも調査統計に関する基礎知識であるから、今後調査実務の上にその知識と経験を十分活用させてもらいたいと思います。なお、今回の講習科目及び時間割と担当講師は次のとおりです。

◎講習科目および時間割

	午 前	午 後
第1日	統計行政	統計概論
第2日	統計概論	統計実務
第3日	統計実務	数理統計
第4日	数理統計	数理統計

◎担当講師

(統計行政) 行政管理庁統計基準部企画課

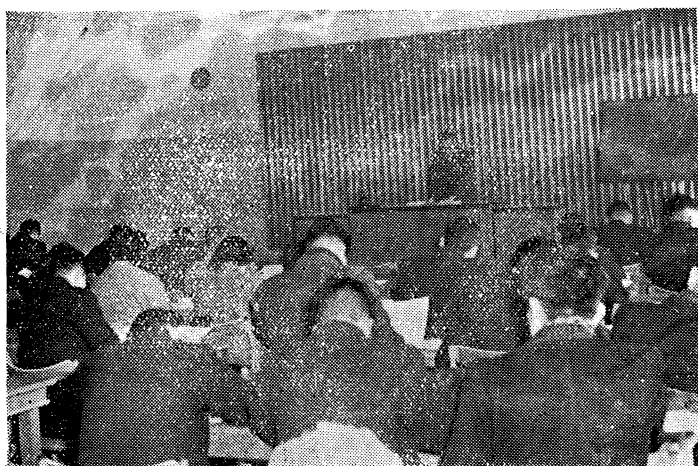
松田道夫

(統計概論)
(統計実務) 総理府統計局

製表部長 友安亮一

(数理統計) 茨城大学助教授

鈴木正毅



(講習会々場風景)

「スチユアート・アーサー・ライス博士の挨拶」

皆様アメリカの妙令の女性はプロポーズされるのを心待ちにしている、突然にプロポーズされたら必ずあまり急で驚きましたというでしょう。私ほちようど今からたつた八分前に基準部の河合さんからプロポーズされたばかりで大変嬉しいのですが、しかしまたあまりに突然だったのでびつくりしました。

皆様を見渡したところ、顔馴染の方は2、3人くらいしかおられないようです。今日、私は二つのことを皆様にお話したいと存じます。

その第一は、世界がだんだん小さくなって、他の国民との接触なしには一瞬たりとも生きることができなくなつて参りました。したがつて他の民族と協調するためには、その相互間の相違を克服しなければなりません。統計はこのように世界が小さくなつた今日、民族が協調して生きてゆくためには最も有効な道具であると思います。

第二に申したいことは、占領行政下において、私はじめ私の国が犯した過ちについてであります。すなわち戦後の特殊な状況のもとにおいて、アメリカ人が日本の多くのことについて発言をいたしました、統計の分野におきましても、統計調査の方法や統計の定義等につきまして、いろいろなことを実行されるようにおすすめてしました。しかしながらそれらのことはアメリカという特殊な環境において発達したもののそのままのものであつて、アメリカとは全く事情の異つている国においてそのまま実行され、またそのまま適用されるということは、大きな過ちを犯すことになるのではないかと、私を最近頃切実に感じているのであります。

たとえば、労働力調査におきまして、就業と失業の定義についてのことでありますが、国際連合がアメリカのような国の経済分析をするためには適当な方法でありませんが、アメリカでは適当な定義であつても、日本その他

東洋の諸国に用いられるのに適当であるかどうかということについては、私は多くの疑問を持たざるをえないのであります。すなわち皆様方は、日本国民の才能なり、技術なりを最も日本の生産力を発展させる基礎となるよう提供する役割を持たれるのであります、そのときアメリカの定義や方法をそのまま使用されることは、決して適当でないと思ふのであります。

このように考えますときに、私は日本の統計家に対して、統計調査の方法や統計の定義について、日本の経済の発展に最も適したものを、自由にそして独自の見地からつくり出されることを望むものであります。けれどもそのような場合に、日本の統計家や経済学者と欧米の統計家や経済学者とが寄り合つて、議論することができる場がほしいのであります。そのような場において欧米の統計家や経済学者から有益なことを教えられるでありましょうが、一面において東洋の統計家や経済学者は欧米のそれらの人々に対して同じように多くのことを教えるだろうと思ひます。そうしてこれによつて、狭い世界の民族と国家とが協調して生きて行く方途を開かれることを私は望むのであります。

最後に結論といたしまして私が申し上げたいことは、皆様方のお仕事と同じ仕事をやつている他の国の人々との協力によつて、世界の安寧と秩序を維持しようとする決意を充分にもつていただきたいことおよび皆様方仕事をするときに欧米における方法や定義を無批判的に用いることは避けて、日本の実情に適した方法や定義を使うようにしていただきたいこととあります。(以上)

この原稿は去る8月2日東京都全国市長会館において開催された全国統計主管課長会議の際に挨拶されたものであります。